

こども新聞
週刊

がほピョンプレス

毎週日曜発行

2021 5/30

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



今回紹介するのは、東日本大震災後に気仙沼市に移り住んだアメリカ出身のキース・モアさん(58)。生活に困っている人に食べ物を支援するフードバンクを広げようと頑張っているよ。

キース・モアさん(58)

アメリカ出身／英会話講師

英会話を教えながら、まちづくり団体「気仙沼ライトハウス」を設立。別の団体などから食料品の提供を受け、月1回、「みんなのおやつタイム」を開いています。
鳥取県出身で妻の恵利子さん(62)と共に住民と

(キリスト教徒)で「困っている人に『あなたは大切な人。大変な時は手伝います』と伝えたい。元氣になれば別な困っている人を助けてくれるはず」と語ります。



ニューヨーク州北部、五大湖の一つオンタリオ湖近くで生まれ、高校卒業後に来日。東京のアメリカ軍横田基地で3年間技術者として働き、恵利子さんと出会い、2人の子に恵まれました。帰国後はケンタッキー州のトヨタ自動車の工場に勤務。震災翌年の2012年に被災地を訪れ、神様に祈る中で被災地支



援を決意します。

17年夏に26年間働いた会社を辞め、家も売って日本に移住。被災地の中で条件に合った気仙沼を住む場所に決め、古い空き家を改修して暮らすようになりました。「信仰に導かれてきた」とキースさん。気仙沼に元氣を与え、ボランティア精神を東北に広めたいと考えます。



「気仙沼は食べ物がいしく、人も親切。美しい海もある」と絶賛。「地元の人には地域の魅力に氣付いていない。『ここはいい所だよ』と自信を持って語ってほしい」とエールを送ります。

「気仙沼ライトハウス」は、灯台を意味する英語が由来だそう。夫妻の活動は被災地に希望をともす灯台のようだね。



庭で栽培する野菜を見せるキースさん。近くの農地でフードバンクのための野菜も育てている＝気仙沼市

あなたの隣の
外国人

被災地に移住 食料を支援

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇6月1日(火) 衣替え

学校や職場の制服が、秋冬用から夏用に切り替わる日だよ。社会人は「クールビズ」と言って、5月から過ごしやすい服装をすることもあるね。夏用から秋冬用の制服に切り替わる衣替えは10月1日。

きょうの紙面

- 2面 どうぶつを作ろう
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー